

## 「統計の日」の制定によせて

行政管理政務次官 大松博文

統計調査事務に従事されている皆さん方の多年の念願でありました「統計の日」が、毎年10月18日と定められ、この「統計の日」にふさわしい諸行事が全国的に繰りひろげられることが、去る7月3日の閣議でいよいよ本きまりになりましたことは、統計の総合調整を所管する行政管理庁の政務次官として、まことにご同慶にたえません。

統計調査事務は、きわめて地味で縁の下の力持ち的な仕事ではありますが、すべての発想や計画は統計に出発するということができます。統計がなくては、あらゆる仕事も、やみくもに、場当り的になり、適切、効果的に行なうことはできないでしょう。

統計調査事務に従事される皆さんが、永い間いろいろの困難やご労苦に打ち勝ち、世界に誇り得るような立派な今日の日本の統計を築き上げられましたことが、とりもなおさず「統計の日」の制定となって、今日ここに開花したものと信じます。ここに改めて皆さん方のご努力に対し、深く敬意を表するものであります。

私はかつて東京オリンピックにおいて、日本女子バレーが優勝しました時に監督をしておりましたが、日本の女子バレーを世界の水準にまで高め、やがて世界選手権に優勝し、ひき続いてオリンピックの檜舞台で宿敵ソ連を破って優勝に導きましたことは、今でもご記憶の方々もあろうかと存じます。

私が昭和29年に日紡貝塚バレーチームを結成以来、オリンピックにおいて優勝するまで、丁度10年の歳月を費やしたわけです。

この間、私はやるからには世界一にならねばならぬ。いや絶対になるという不動の信念のもとに努力しました。

当時の常勝将軍ソ連に比し、体力、技術ともに劣っていた、我々日本としてソ連に勝つためには、できないことをやらねば駄目だと、自分にも選手にも云いきかせ、それこそ、盆正月なして真夜中に到る猛練習を繰り返えし、技術的には、回転レシーブや、当時魔のサーブと云われたようなサーブ方法を考案し、それを身につける為の血みどろの練習を積んだ結果、その努力の甲斐あって、我々は到頭オリンピックに優勝し、世界一になることができたのです。

何事も一朝一夕にできるものではありません。不屈の信念とたゆまぬ努力こそ尊いものであります。

私は行政管理庁の政務次官を拝命して、未だ僅か一年足らずでありますので、統計のことについては全くの素人ではありますが、統計についても、バレーと同じことが言えると思います。

このたび、全国の統計関係者一同の永い間の念願であった「統計の日」の制定にあたり統計調査事務に従事されている国地方公共団体の統計職員や統計調査員の方々をはじめ、数多くの諸先輩の方々のご労苦、ご努力が実を結び、輝やかしい今日の日本の統計を築き上げたことに想いをいたすとき、奇しくも、往年のバレーボール監督時代を想起し、何事も「為せば成る」の実感を今更ながら深くしているところです。私も微力ながら日本の統計の発展のために最善の努力をして参りたいと存じております。

全国の統計関係者の皆さん、この度「統計の日」の制定を機に、更に一層統計の発展の為に、よりよい統計をより早く作成することにご尽力されますよう念願致します。